

青少年体験活動 ボランティア養成研修

【第1回】平成30年5月12(土)～13日(日)

【第2回】平成30年5月19日(土)～20日(日)

【目的】

教育事業や研修支援などの運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成し、青少年教育におけるボランティア活動を一層推進するとともに、本所におけるボランティア活動の充実を図る。

【参加者】 【第1回】高校生2名、大学生49名 【第2回】大学生37名

【プログラムの内容】

1日目

- 10:00 開講式、オリエンテーション
- 10:30 講義「ボランティア活動の意義」
- 13:00 講義「青少年教育の現状と運営」
- 14:30 演習「ボランティア活動の技術」
- 20:10 講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」

2日目

- 9:00 演習「安全管理」
- 12:45 講義「青少年教育」
- 14:20 演習「これからのボランティア活動にむけて」
- 14:45 説明「法人ボランティア登録制度」
- 15:20 閉講式

講義「ボランティア活動の意義」

講義「青少年教育施設の現状と課題」



「ボランティア活動の意義」では、「ボランティアとは何か」について考え、ボランティアとしての心構えや子供への接し方などについて学びました。

「青少年教育施設の現状と課題」では、教育とは何なのか、青少年教育施設の教育機能についてなどを学びました。

演習「ボランティア活動の技術」



薪割りや炊事を実際に体験しながら、カレーを作りました。技術の習得だけでなく、参加者同士の交流もできました。最後のふりかえりでは、野外炊飯の魅力や、野外炊飯を通して何が学べるのかなどについて、参加者同士で意見交換を行いました。

講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」



現在自然の家でボランティアとして活躍している先輩に、ボランティアの魅力ややりがいについて話していただきました。実際に活動をしている先輩からの話は、参加者の心に響き、ボランティアへの意欲が高まったように感じました。

演習「安全管理」



1回目では、前日の野外炊飯をもとに、野外炊飯で気をつけることは何かをグループワーク形式で考えてもらいました。2回目では、赤十字救急法指導員の方から心肺蘇生法や三角巾を使った止血法などを教えていただきました。1回目も2回目も、目の前の対象者が安心して活動をするためにどのようなことを考えて動いたらよいかを参加者同士で話し合っていました。

講義「青少年教育」

演習「これからのボランティア活動にむけて」、説明「法人ボランティア登録制度」



「青少年教育」では、青少年になぜ体験が重要なのか、また、徳地自然の家では実際にどのような取り組みをしているのかについて学びました。

「これからのボランティア活動にむけて」では、2日間のふりかえりを行い、これからのボランティア活動に向けての意欲を高めることができました。

最後の「法人ボランティア登録制度」では、法人ボランティアの登録方法について知り、多くの方が登録をしてくださりました。

【参加者の声】

「最初は興味本位で参加したが、これからの私にとってかけがえない経験ができる良い場所になりそうだなと思いました。」
「楽しく学べることができました。これからは、楽しませる側として頑張っていきたいです。」などの声をいただきました。

【成果】

事業満足度が100%であったことから、プログラムの運営がよくなったことが伺える。

今年度より2回研修会を実施したことで、参加者の予定に合わせて参加できるようになった。

【課題】

カリキュラムの内容の中には重複するものもあったため、実技等を取り入れるなどの工夫が必要である。